資料－１

平成２０年度
北陸地方建設事業推進協議会

「建設技術報告会」

実 施 報 告 書

平成２１年　１月

北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会

ー 目 次 ー

１．開催概要

１）目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２）開催日時 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
３）開催場所 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
４）構成と報告時間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
５）報告技術のテーマ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
６）主催構成機関及び実行委員会構成員 ・・・・・・・・・・・・・ 3
７）聴講者数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

２．実施内容

１）開会式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
２）記念講演 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
３）技術報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
４）報告技術一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
５）総評・閉会式 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
６）パネル展示コーナー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

３．準備及び運営・設営

１）スケジュール ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
２）主な経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
３）運営体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
４）会場設営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

４．広報

１）広報活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
２）広報掲載状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

５．アンケート

１）設問内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
２）配布・回収 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
３）アンケート結果概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
４）設問別集計結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

１．開催概要

１）目　的

「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図る事を目的に開催するもので、平成７年度から開催され、今回で第１３回目の開催となりました。

２）開催日時

●平成２０年１０月２９日（水）　　９時００分～１７時００分

■ 受　　付　　９時００分～　　２階ロビー（ホワイエ）

■ 開　会　式　　９時３０分～９時４０分　　第１会場：メインホール（B）
　　開 会 挨 拶　北陸地方整備局企画部長　小池　幸男

■ 記 念 講 演　　９時４０分～１０時２５分　第１会場：メインホール（B）
　　演　　題　「北陸地方の災害と対策」
　　講　演　者　北陸地方整備局　企画部　防災課長　小川　信一

■ 技術報告　　１０時３５分～１６時４１分
　　第１会場　メインホール（B）
　　第２会場　中会議室（２０１）

■ 閉　会　式　　１６時５０分～１７時００分　第１会場　メインホール（B）
　　総評、閉会挨拶　「平成 20 年度建設技術報告会」実行委員長
　　佐久間　満（北陸地方整備局　北陸技術事務所長）

３）開催場所

●施 設 名
　朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）
　　住　所：〒950-0078 新潟県新潟市中央区万代島６番１号
　　電　話：０２５－２４６－８４００

《交通アクセス》
◆新 潟 駅 利 用：万代口から路線バスで１５分
　　新潟駅万代口バスターミナル５番線より新潟交通１７系統「朱鷺メッセ経由佐渡汽船行き」に乗車、「朱鷺メッセ」下車
◆自 動 車 利 用：日本海東北自動車道新潟亀田ＩＣより２０分北陸自動車道新潟西 IC より３０分
◆新 潟 空 港 利 用：新潟空港よりタクシーで２０分

●使用会場

開会式・記念講演・・・・・・・・・　メインホール（B）　：聴講者４００席
第１会場・閉会式・・・・・・・・・　メインホール（B）　：聴講者４００席
第２会場・・・・・・・・・・・・・　中会議室（２０１）：聴講者２００席

パネル展示コーナー・・・・・・・・　２階 アトリウム　　：２０技術（パネル展示）
NETIS 登録技術コーナー・・・・・　２階 アトリウム　　：２４技術（パンフレット配布）

事務局控室、来賓控室・・・・・・　２階　小会議室２０４

４）構成と報告時間

記念講演と技術報告会の２部構成とし、技術報告は２会場の分科会方式とした。報告時間は質疑・応答時間を含めて１課題１６分で行った。

５）報告技術のテーマ

北陸地方の建設技術の基本課題のテーマ（５テーマ）に「その他」を含めた６テーマの分類により、合計３２題の技術報告を行った。

①雪に強い地域づくり
（克雪対策、冬期道路交通の安全確保に関する新技術・新工法）

②良いものを安く
（コスト縮減、省力化に関する新技術・新工法）

③自然災害からの安全確保
（危機管理、土石流などの防災に関する新技術・新工法）

④環境の保全と創造
（建設副産物、リサイクルに関する新技術・新工法）

⑤ゆとりと福祉
（情報化、バリアフリーなどに関する新技術・新工法）

⑥そ の 他
（上記のテーマ①～⑤に属さない新技術・新工法）

【テーマ別報告技術数】

テーマ	報告技術
① 雪に強い地域づくり	4
② 良いものを安く	10
③ 自然災害からの安全確保	6
④ 環境の保全と創造	7
⑤ ゆとりと福祉	1
⑥ その他	4
計	32

６）主催構成機関及び実行委員会構成

■主催構成機関

北陸地方建設事業推進協議会「平成２０年度 建設技術報告会」実行委員会

以下に実行委員会構成機関（22 機関）を示す。

北陸地方整備局／新潟県／富山県／石川県／新潟市／東日本高速道路(株)新潟支社
中日本高速道路(株)金沢支社／(社)日本土木工業協会北陸支部
(社)日本道路建設業協会北陸支部／(社)建設コンサルタンツ協会北陸支部
(社)日本建設機械化協会北陸支部／(社)新潟県建設業協会／(社)富山県建設業協会／
(社)石川県建設業協会／北陸土木コンクリート製品技術協会
(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部／北陸ＰＣ防雪技術協会
新潟県融雪技術協会／(財)新潟県建設技術センター／北陸地質調査業協会
(社)日本埋立浚渫協会北陸支部／(社)北陸建設弘済会

■実行委員会構成

役　員	所　属	役　職	備　考
委員長	北陸地方整備局　北陸技術事務所	事務所長	
副委員長	北陸地方整備局　新潟港湾空港技術調査事務所	事務所長	
委　員	北陸地方整備局　企画部　施工企画課	課 長	
委　員	北陸地方整備局　港湾空港部　海洋環境・技術課	課 長	
委　員	新潟県　土木部　技術管理課	土木工事検査監	会計監査員
委　員	富山県　土木部　建設技術企画課	技術指導係長	
委　員	石川県　土木部　監理課　技術管理室	課長補佐	
委　員	新潟市　工事検査センター	次長	
委　員	東日本高速道路(株)　新潟支社 総合調整部 技術企画課	課長代理	
委　員	中日本高速道路(株)　金沢支社 総務企画部 企画調整チーム	サブリーダー	
委　員	(社)日本土木工業協会　北陸支部	副幹事	
委　員	(社)日本道路建設業協会　北陸支部	幹事長	
委　員	(社)建設コンサルタンツ協会北陸支部	広報委員長	
委　員	(社)日本建設機械化協会　北陸支部	普及部会委員	
委　員	(社)新潟県建設業協会	契約制度部長	
委　員	(社)富山県建設業協会	常務理事	
委　員	(社)石川県建設業協会	参与	
委　員	北陸土木コンクリート製品技術協会	技術委員長	
委　員	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部	事務局長	
委　員	北陸ＰＣ防雪技術協会	事務局長	
委　員	新潟県融雪技術協会	技術委員長	
委　員	(財)新潟県建設技術センター	企画部長	
委　員	北陸地質調査業協会	事務局長	
委　員	(社)日本埋立浚渫協会　北陸支部	技術委員長	
委　員	(社)北陸建設弘済会	事業調査室長	

7）聴講者数

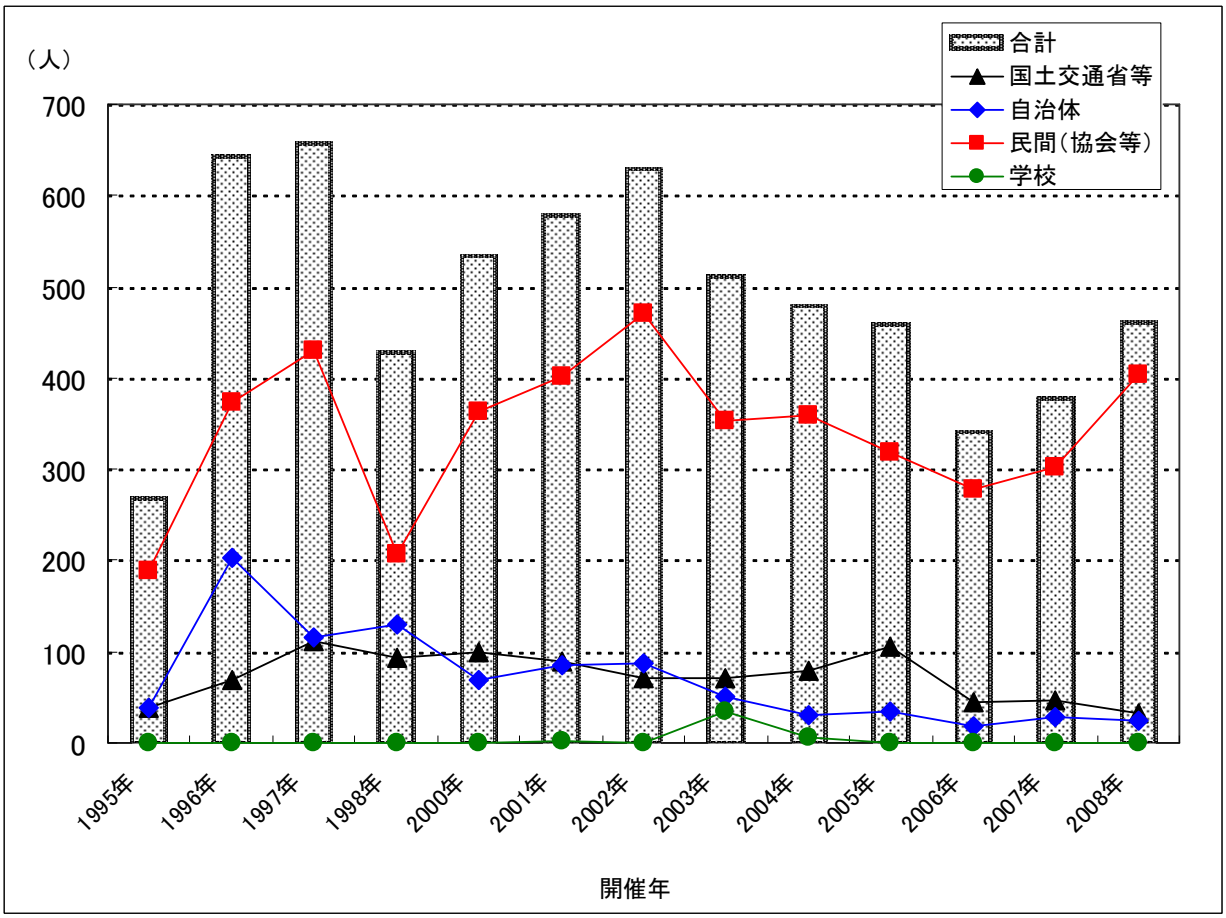
本報告会の聴講申込人数及び聴講実績人数は下表のとおりである。

〈「平成２０年度建設技術報告会」　聴講者集計表〉

機関名		実績	
国土交通省	北陸地方整備局	33	33
	他地方整備局	0	
その他省庁	その他省庁		0
自治体関係	新潟県	4	9
	新潟県　市町村	5	
	富山県	1	1
	富山県　市町村	0	
	石川県	1	1
	石川県　市町村	0	
	福井県		1
	新潟市		12
小計			57
協会等：主催	東日本高速道路㈱		2
	中日本高速道路㈱		0
	(社)日本土木工業協会		34
	(社)日本道路建設業協会		64
	(社)建設コンサルタンツ協会		6
	(社)日本建設機械化協会		23
	(社)新潟県建設業協会		36
	(社)富山県建設業協会		0
	(社)石川県建設業協会		23
	北陸土木コンクリート製品技術協会		9
	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会		1
	北陸ＰＣ防雪技術協会		3
	新潟県融雪技術協会		6
	(財)新潟県建設技術センター		3
	北陸地質調査業協会		4
	(社)日本埋立浚渫協会		11
	(社)北陸建設弘済会		16
小計			241
協会等：その他	(社)日本測量協会		0
	(社)建設電気技術協会		0
	(財)先端建設技術センター		1
	(財)河川情報センター		1
	(社)雪センター		1
	(財)道路保全技術センター		3
	(財)ダム技術センター		0
	(財)ダム水源池環境整備センター		0
	(財)リバーフロント整備センター		0
	(財)砂防・地すべり技術センター		0
	(財)日本建設情報総合センター		0
	(財)経済調査会　北陸支部		0
	(財)国土開発研究センター		0
	(社)新潟県地質調査業協会		7
	(社)石川県舗装業協会		15
	全国仮設安全事業協同組合		2
	一般（加入協会不明を含む）		94
小計			124
学校			0
報道			7
発表者			32
小計			39
（官　公　庁　合計）			57
（民　　間　合計）			404
合計			461

■「建設技術報告会」聴講者数の推移

〈「建設技術報告会」聴講者数（第 1 回～第 13 回)〉



内訳＼開催年	1995年	1996年	1997年	1998年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
国土交通省等	39	68	112	94	100	89	72	72	80	105	45	47	33
自治体	39	202	116	129	69	86	87	50	31	34	18	29	24
民間（協会等）	189	373	430	206	364	401	471	354	360	319	278	302	404
学校	0	0	0	0	0	3	0	35	7	0	0	0	0
合計	267	643	658	429	533	579	630	511	478	458	341	378	461
開催地	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市	富山市	新潟市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市	新潟市

注）１．発表者及び報道関係者は、「民間（協会等)」に含む。
２．運営スタッフは、人数に含んでいない。
３．「自治体」には、市町村関係者を含む。

第1会場

第2会場

２．実施内容

１）開会式

時　　間：９時３０分～９時４０分
会　　場：第１会場メインホール（B）
開会挨拶：北陸地方整備局　企画部長　小池　幸男
司　　会：北陸技術事務所　副所長　　柴澤　一嘉

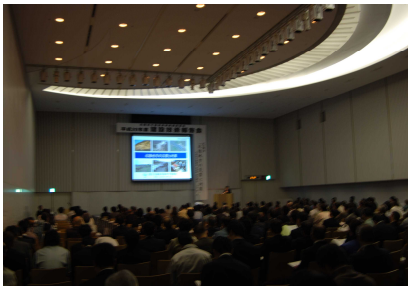
２）記念講演

時　　間：９時４０分～１０時２５分
会　　場：第１会場メインホール（B）
演　　題：「北陸地方の災害と対策」
開会挨拶：北陸地方整備局　企画部　防災課長　小川　伸一
司　　会：北陸技術事務所　副所長　柴澤　一嘉

３）技術報告

時　　間：１０時３５分～１６時４１分
会　　場：第１会場　メインホール（B）１６技術
　　第２会場　中会議室２０１　　１６技術
司　　会：第１会場　北陸地方整備局 施工企画課　課長補佐　大井　孝輝
　　(社)日本土木工業協会　林　英輝
　　：第２会場　北陸地方整備局 海洋環境･技術課　課長補佐　安井　哲博
　　(社)日本道路建設業協会　中澤　覚

・第１会場実施状況



・第２会場実施状況

4）報告技術一覧

主催機関・団体別の報告技術は以下の３２技術である。

〈報告技術一覧（機関・団体別）〉

機関・団体名	テーマ番号	報告技術名	会社・機関・部署等
国土交通省	③	ロングスパン地表伸縮計の検討について	北陸地方整備局 北陸技術事務所　防災技術課
(社)日本土木工業協会 北陸支部	④	軽量緑化パネル工法による屋上緑化について	(株)植木組　本社 環境エンジニアリング部
	③	直立浮上式防波堤の開発	(株)大林組　土木本部　生産技術本部　海洋土木技術部
	②	イージースラブ橋（H鋼桁埋込ＲＣ床版橋）	(株)加賀田組　建設本部 技術部
	②	トンネル内巻補強工法の開発	鹿島建設(株)　技術研究所
	⑥	ＮＡＴＭとシールドを融合した新しいトンネル工法『ＳＥＮＳ』の開発	(株)熊谷組　土木事業本部 シールド技術部
	③	曲がり削孔による既設構造物の液状化対策	五洋建設(株)　技術研究所
	⑥	コンクリート構造物のひび割れ検出システム	大成建設(株)　技術センター 土木技術研究所　土木構工法研究室
	②	MMB（マルチミキシングバケット）工法の開発	(株)福田組　土木事業本部 エンジニアリング事業部
(社)日本道路建設業協会 北陸支部	②	ヒートスティック工法（薄層路面補修工法）の開発	鹿島道路(株)　技術研究所
	④	下水汚泥焼却灰の安定化処理とアスファルトフィラー化	(株)金沢舗道　生産部
	①	オールシーズン型環境舗装の効果	(株)ガイアートＴ・Ｋ 技術研究所
	①	ザペック工法タイプＧ（凍結抑制舗装）について	世紀東急工業(株)　技術本部 技術部
	⑤	ニューカラーコート・シリーズ （常温型薄層カラー舗装）	東亜道路工業(株)　北陸支社 技術部
	②	ブロック舗装強化工法	大成ロテック(株)　生産技術本部　技術研究所
	②	常温ガラスコーティングシステム	大成ロテック(株)　中部支社 工事部
	④	ヒートドレッシング工法の試験施工および調査結果	福田道路(株)　技術研究所
	②	加熱明色薄層舗装（明色トンネルシール工法）の適用性について	日本道路(株)　技術研究所
(社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	③	崖錐斜面上の大規模な軽量盛土（ＥＰＳ）に対する性能照査の必要性	東京コンサルタンツ(株) 新潟富山支社
	②	場所打ちＰＣ床版（フルプレストレス）のプレストレスロス対策	東京コンサルタンツ(株) 新潟富山支社

機関・団体名	テーマ番号	報告技術名	会社・機関・部署等
(社)日本建設機械化協会 北陸支部	②	薄層表面処理工法「ニッポカーペット」について	(株)ＮＩＰＰＯコーポレーション　北信越支店　試験所
	①	融雪用プレキャストＲＣ版舗装の設置事例	永井コンクリート工業(株)
	⑥	手すり先行工法に基づく働きやすい安心感のある足場	全国仮設安全事業協同組合 企画広報部
	⑥	重機用危険探知・警報装置に関する技術報告	(有)アムカ　企画担当
(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会　北陸支部	②	ＰＣ道路橋計画マニュアルの改訂について	オリエンタル白石(株) 北陸支店
北陸ＰＣ防雪技術協会	③	道路防雪施設マニュアル［コンクリート構造編］の改訂	北陸ＰＣ防雪技術協会 技術部会
(社)新潟県融雪技術協会	①	施工性・メンテナンス性を向上した新型消雪パイプブロック	(株)興和　技術開発室
北陸地質調査業協会	②	ＲＰＤによる連続打撃動的貫入試験	(株)興和　調査部
(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	④	環境対応型グラブ（スーパーグラブバケット）浚渫工法	東亜建設工業(株) 技術研究開発センター
	④	カキ殻を活用した屋上緑化工法	(株)本間組　建築事業本部 企画設計部
	④	ＭＬＴ工法による減容化システム	(株)本間組　土木事業本部 土木部
	③	液状化対策としての静的圧入締固め工法（ＣＰＧ工法）	みらい建設工業(株)　技術部

技術報告テーマ：

①雪に強い地域づくり、②良いものを安く、③自然災害からの安全確保、④環境の保全と創造、⑤ゆとりと福祉、⑥その他

5）総評･閉会式

時　　間：16 時 50 分～17 時 00 分
会　　場：第１会場　メインホール（B）
総評･閉会挨拶：「建設技術報告会」実行委員長　佐久間　満
（北陸地方整備局　北陸技術事務所長）
司　　会：北陸技術事務所　副所長　柴澤　一嘉

なお、聴講者の方々に、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術、関心の高かった技術をアンケートでお聞きしたところ、以下の技術に興味を示されていました。

■「曲がり削孔による既設構造物の液状化対策」（五洋建設㈱　技術研究所）
■「ロングスパン地表伸縮計の検討について」（北陸地方整備局　北陸技術事務所）
■「直立浮上式防波堤の開発」（㈱大林組　土木本部）
■「常温ガラスコーティングシステム」（大成ロテック㈱　中部支社）
■「薄層表面処理工法「ニッポカーペット」について」
（㈱NIPPO コーポレーション　北信越支店）

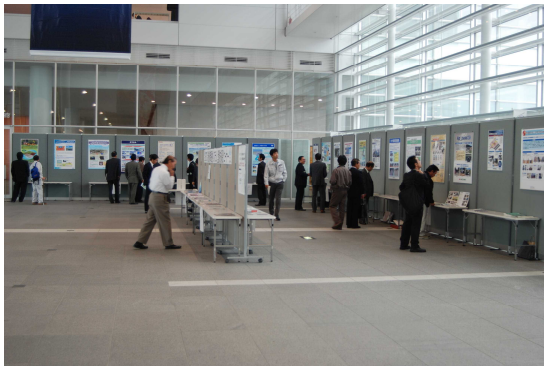
６）パネル展示コーナー

時　　間：　9 時 00 分～16 時 30 分（会期中常設）
会　　場：　２階オープンギャラリー　アトリウム

報告技術以外の新技術を対象とするパネル展示コーナーを併設した。
なお、パネル展示は展示希望を募り、展示希望のあった２０技術のパネル展示及びパネル展示技術の紹介パンフレット配布を行った。

〈パネル展示技術　一覧表〉

No.	技術名	出展者名
1	軽量緑化パネル工法「プチガーデン」	(株)植木組
2	曲がり削孔式浸透固化処理工法	五洋建設(株)
3	ジョッツクリート工法	(株)大林組
4	ダクタル	大成建設(株)
5	ESR工法	福田道路(株)
6	RPDによる連続打撃動的貫入試験	(株)興和
7	環境対応型グラブ（スーパーグラブバケット）浚渫工法	東亜建設工業(株)
8	「ペルメックス」－安定性・経済性に優れた被覆ブロック－	(株)不動テトラ
9	PSS-Arch工法	(株)熊谷組
10	下水汚泥焼却灰の安定化処理とアスファルトフィラー化	(株)金沢舗道
11	加熱明色薄層舗装（明色トンネルシール工法）	日本道路(株)
12	新ストリートプリント	鹿島道路(株)
13	グレーチングストッパーSP	丸運建設(株)
14	遮水型排水性舗装（POSMAC）	東亜道路工業(株)
15	カキ殻景観舗装	本間道路(株)
16	バイロペーブ	(株)NIPPOコーポレーション
17	特殊側溝	(株)かねこ
18	Ap_pass工法	日本サミコン(株)
19	空気融雪ACCESS	(株)興和
20	ソイルセメント連続地中壁を利用した地中熱活用技術	(株)本間組

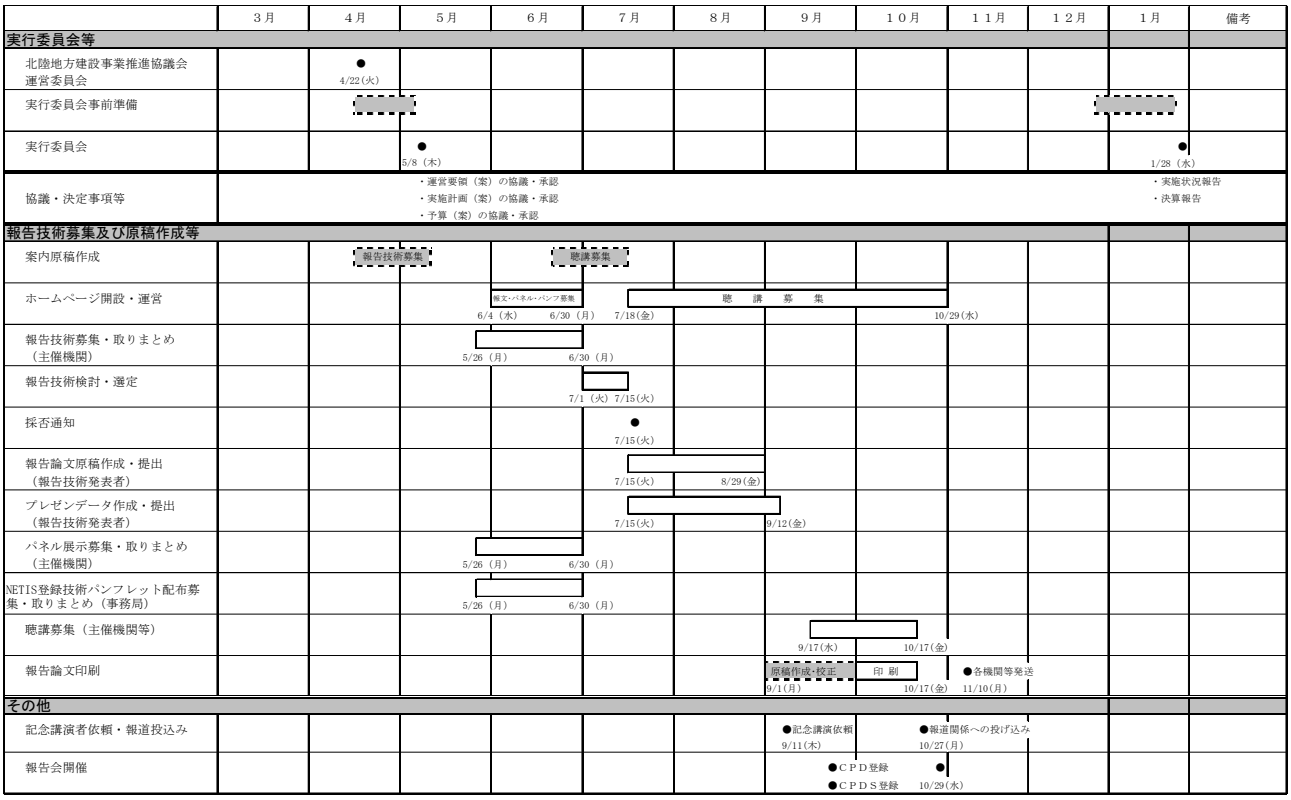


３．準備及び運営・設営

１）スケジュール

平成 20 年度「建設技術報告会」は、下記のとおり実施した。

北陸地方建設事業推進協議会「平成20年度 建設技術報告会」運営スケジュール



２）主な経緯

会　議　名　等	実　施　日	会　場	内　容
平成20年度 北陸地方建設事業推進協議会運営委員会	平成20年4月22日(火)	北陸地方整備局 ４Ｆ　会議室	建設技術報告会の開催承認
平成20年度「建設技術報告会」 第１回実行委員会	平成20年5月8日(木) 13時30分～15時00分	北陸地方整備局 ４Ｆ　会議室	運営要領(案)の協議・承認 実施計画(案)の協議・承認 予算(案)の協議・承認
平成20年度「建設技術報告会」	平成20年10月29日(木) 9時30分～17時00分	朱鷺メッセ メインホール（Ｂ） 中会議室２０１	報告会開催
平成20年度「建設技術報告会」 第２回実行委員会	平成21年 1月28日(水) 13時30分～15時00分	北陸地方整備局 ４Ｆ　会議室	実施結果報告 決算報告 次回の開催について

3）運営体制

報告会当日は、主催構成機関・団体からの運営スタッフ 25 名（官：13 名、民：12 名）の協力により実施した。

〈運営体制表〉

係名(役割等)			時間(概略)	人数	共　通	第1会場	第2会場
受付係	聴講受付	受付開始 ↓ 記念講演終了	9:00～10:25	12	新潟県　新潟県 瀬高　憲一　根本　晋哉 新潟市　新潟市 鈴木　豊実　金子　安良 新潟県建設業協会　新潟県建設業協会 片野　実　大関　真 日本土木工業協会　日本土木工業協会 江口　美津江　佐藤　睦子 日本道路建設業協会　日本道路建設業協会 長谷川　美香　川﨑　光		
		記念講演終了 ↓ 閉会式終了	10:25～17:00	3	新潟県　日本土木工業協会 瀬高　憲一　江口　美津江 日本道路建設業協会 長谷川　美香		
	CPD/CPDS受講受付	受付開始 ↓ 閉会式終了	9:00～17:30	2	企画部施工企画課　新潟港湾空港技術調査事務所 藤本　祐文　名畑　浩二		
		受付開始 ↓ 記念講演終了	9:00～10:25	2	日本建設機械化協会　日本建設機械化協会 榎　紀洋　上村　弘		
		第2グループ報告終了 ↓ 閉会式終了	14:30～17:30	2	企画部施工企画課　港湾空港部 海洋環境・技術課 大井　孝輝　安井　哲博		
技術報告	司　会　係		10:35～16:41	4		企画部施工企画課 大井　孝輝 日本土木工業協会 林　英輝	港湾空港部 海洋環境・技術課 安井　哲博 日本道路建設業協会 中澤　覚
	時間管理係		10:35～16:41	2		新潟県 根本　晋哉	新潟市 金子　安良
	パソコン係		10:35～16:41	2		企画部施工企画課 谷澤　俊夫	新潟市 鈴木　豊実
	マイク受渡係		10:35～16:41	4		日本土木工業協会 佐藤　睦子 日本建設機械化協会 榎　紀洋	新潟県建設業協会 大関　真 日本道路建設業協会 川﨑　光
	会場照明係		10:35～16:41	2		日本建設機械化協会 上村　弘	新潟県建設業協会 片野　実
	写　真　係		10:35～16:41	2		日本埋立浚渫協会 山本　高士	日本埋立浚渫協会 八川　勝志
事務局	開会式司会 記念講演司会 閉会式司会		9:30～9:40 9:40～10:25 16:50～17:00	1	北陸技術事務所 柴澤　一嘉 ※司会時以外はマスコミ対応		
	VIP案内 マスコミ対応		8:40～10:35 10:35～17:00	1	企画部施工企画課 宮村　兵衛		
	マスコミ対応		9:00～10:25	1	企画部施工企画課 大井　孝輝		
	連絡調整係		終　日	1	北陸技術事務所 古川　貴英		
	全体写真係 (実施状況・開閉式・記念講演等)		終　日	1	北陸技術事務所 渡邊　俊彦		

国土交通省　北陸地方整備局				実行委員会構成機関・団体							合計
企画部 施工企画課	港湾空港部 海洋環境・技術課	北陸技術事務所	新潟港湾空港技術調査事務所	新潟県	新潟市	新潟県建設業協会	日本土木工業協会	日本道路建設業協会	日本建設機械化協会	日本埋立浚渫協会	
4	1	3	1	2	2	2	3	3	2	2	
9				16							25

注）青字／国土交通省北陸地方整備局　黒字／実行委員会構成機関・団体

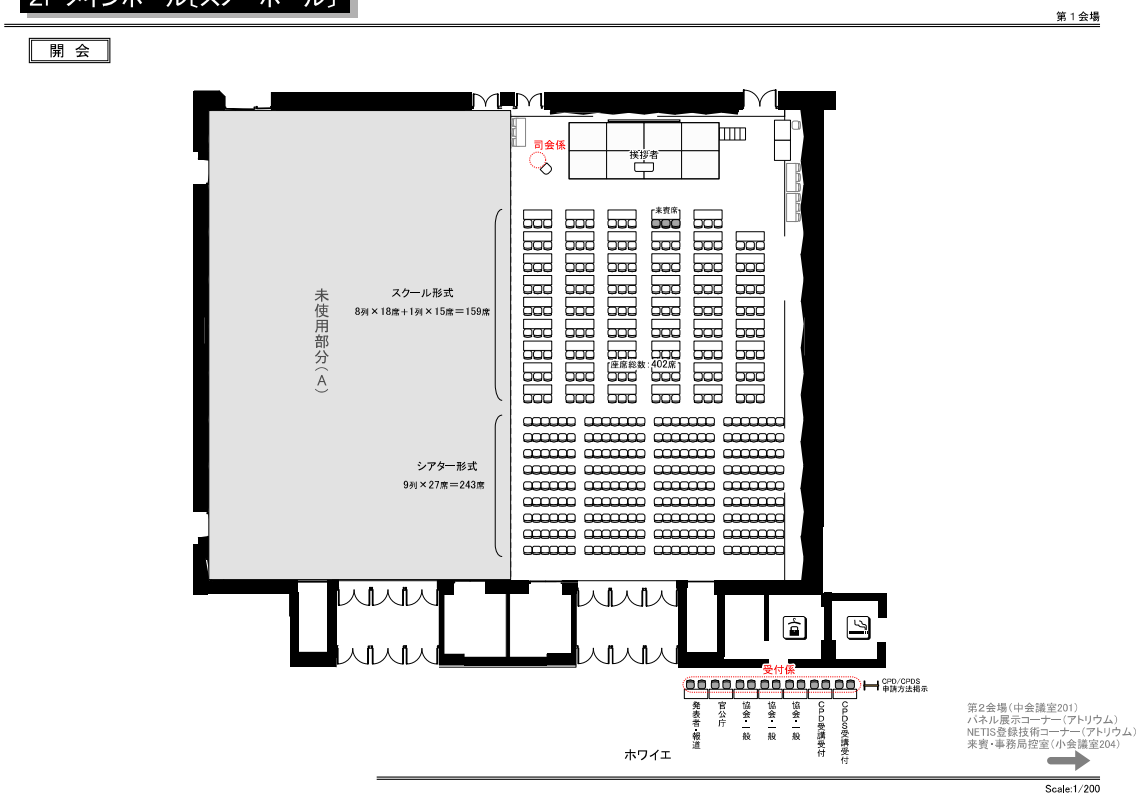
4）会場設営

（1）フロア配置図

（2）各会場配置図

■開会式・記念講演

2F メインホール〔スノーホール〕

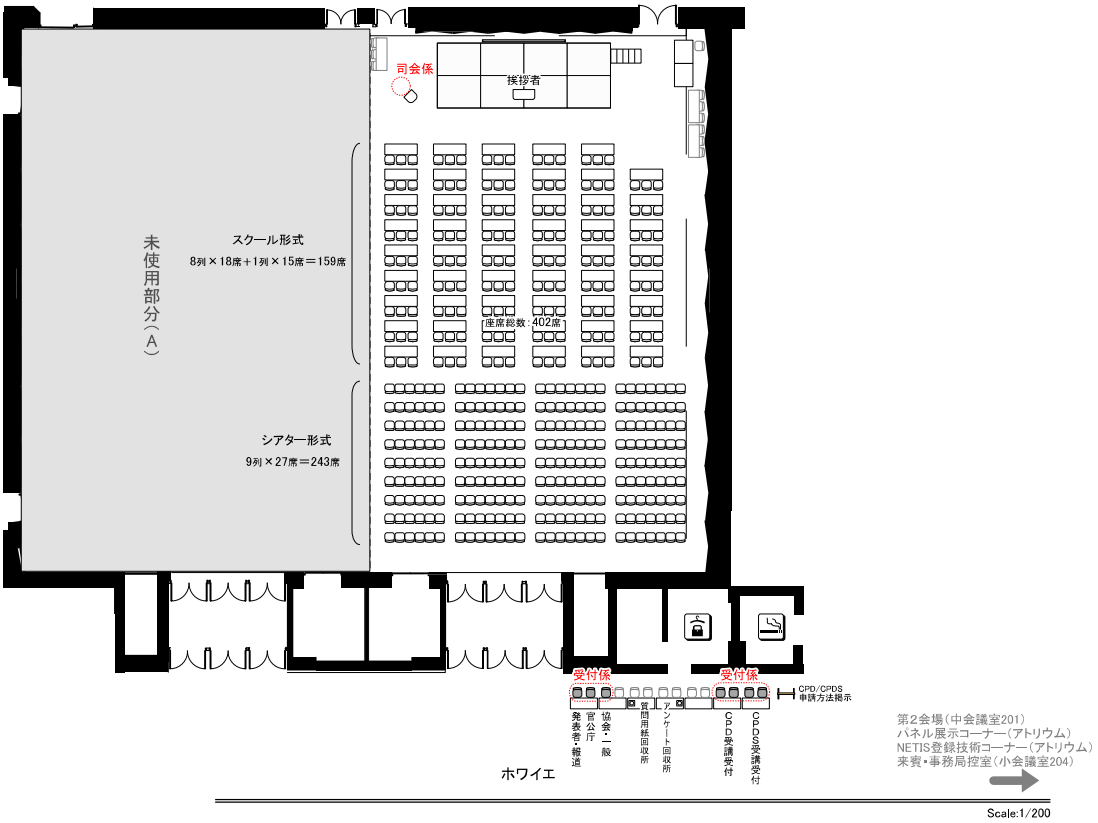


■閉会式

2F メインホール〔スノーホール〕

第１会場

閉 会



アンケート回収所配置

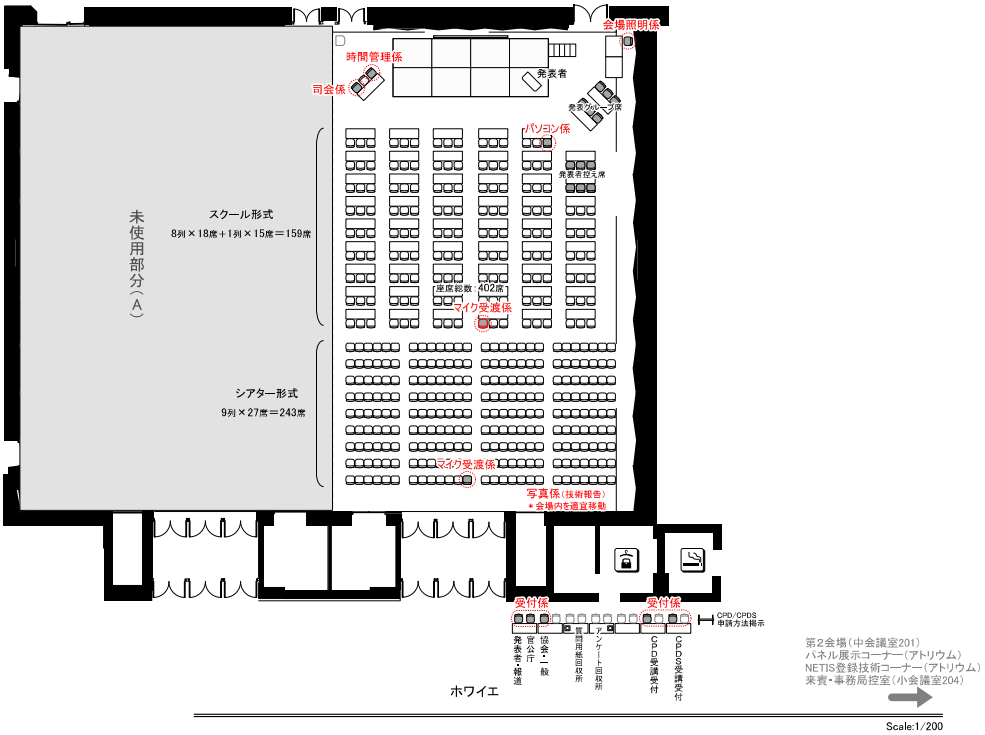
受　付　配　置

■技術報告（第１会場）

2F メインホール〔スノーホール〕

第１会場

技術報告

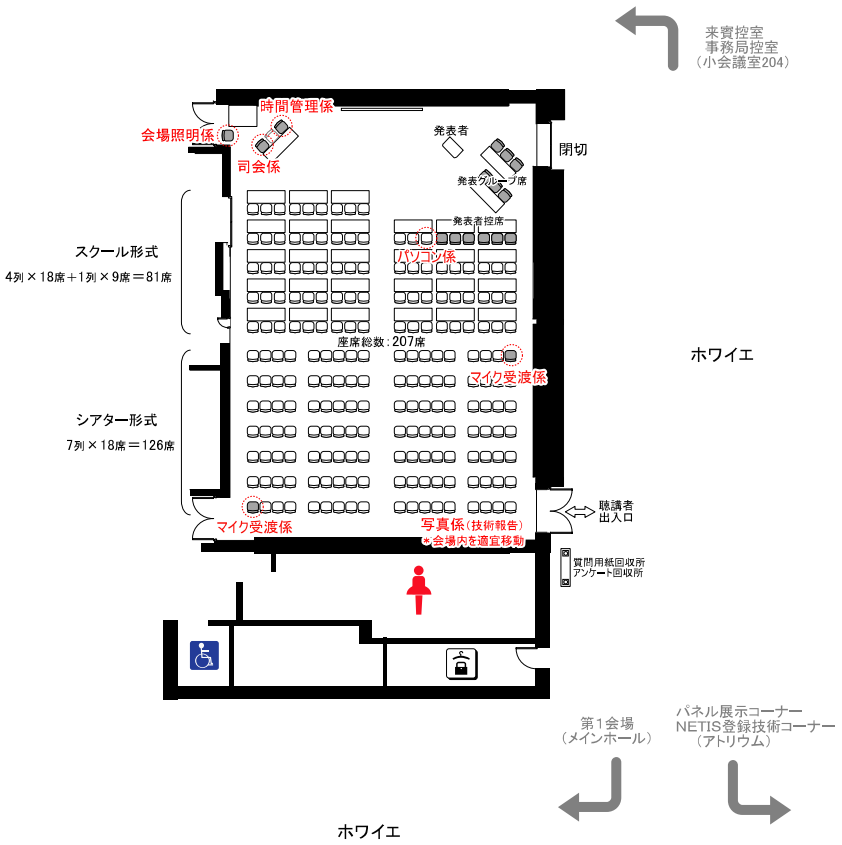


■技術報告（第２会場）

2F 中会議室〔201〕

第２会場

技術報告

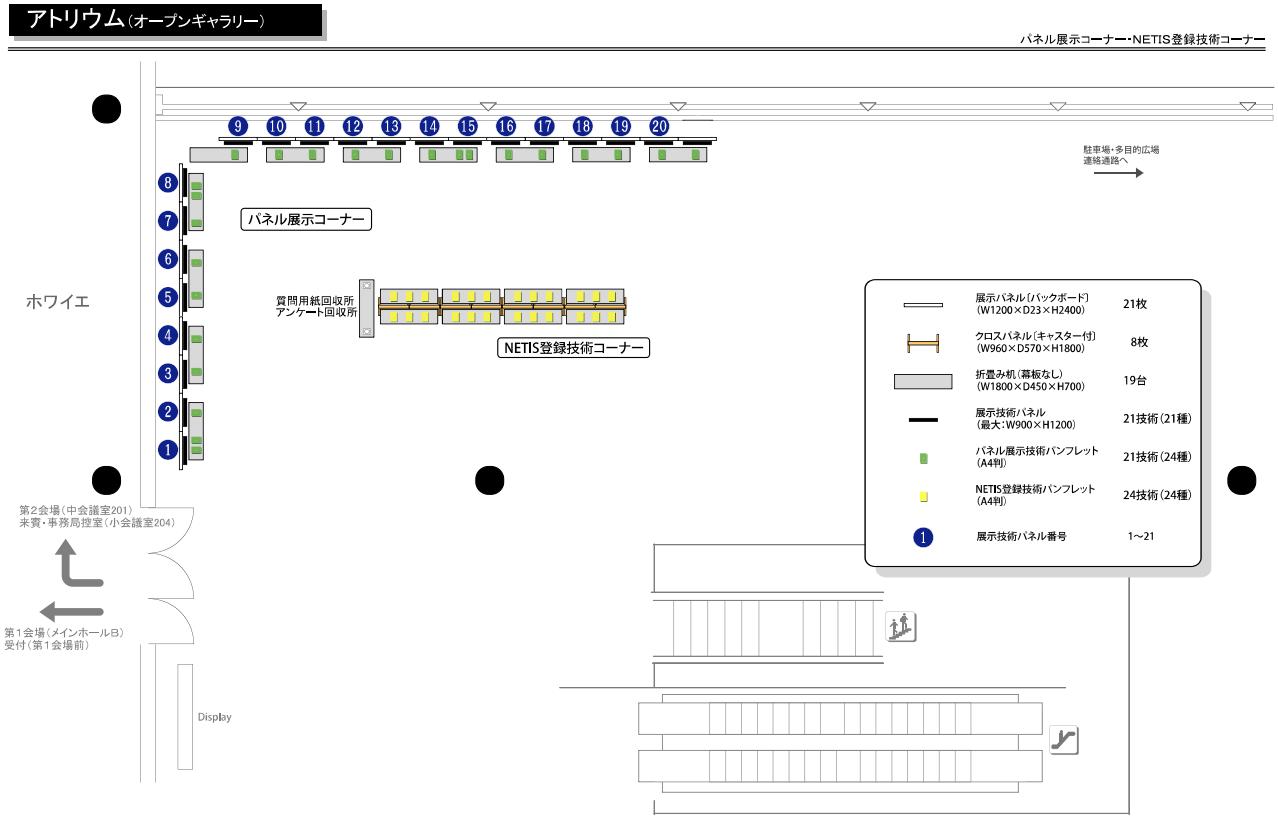


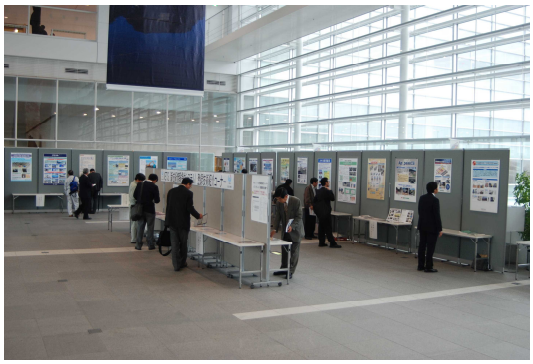
開会・記念講演

第１会場

第２会場

■パネル展示コーナー・ＮＥＴＩＳ登録技術コーナー





パネル展示

パンフレット配布コーナー

４．広報

１）広報活動

種別・内容		方法	時期	摘要
チラシ配布	●報告技術募集用	配布・募集	5月23日～	建設技術報告会実行委員会 主催機関・団体
	●聴講募集用		9月17日～	主催機関・団体、市町村 建設関係団体等
定期刊行誌	北陸の建設技術	掲載依頼	9月号、12月号	
記者クラブ	新潟県政記者クラブ	投げ込み	10月27日	開催概要 チラシ
	富山県政記者クラブ			
	石川県政記者クラブ			
建設専門紙	日刊建設通信新聞社	投げ込み	10月27日	開催概要 チラシ
	日本工業経済新聞社			
	日刊建設工業新聞社			
	建設ジャーナル社			
	新潟建設日報社			
	産業新聞社			
	鉄鋼新聞社			
	北陸工業新聞社			
	日刊工業新聞社			
	中部建設新聞社			
	実業新報社			
	日刊建設産業新聞社			
	(株)北陸工業新聞社			
	市町村新聞社			
ホームページ	北陸技術事務所	開設・運用	6月 4日～（報告技術募集） 7月18日～（聴講募集）	
	各主催機関・団体		適宜	

２）広報掲載状況

（１）新聞報道

掲載紙	発行機関	掲載月日
日刊建設工業新聞	日刊建設工業新聞社	平成20年10月30日(木)
建設工業新聞	㈱北陸工業新聞社	平成20年10月30日(木)
新潟建設新聞	日本工業経済新聞社	平成20年10月29日(水)
新潟建設新聞	日本工業経済新聞社	平成20年10月30日(木)
新潟建設新聞	日本工業経済新聞社	平成20年11月1日(土)
建設通信新聞	㈱日刊建設通信新聞社	平成20年10月29日(水)
建設通信新聞	㈱日刊建設通信新聞社	平成20年11月4日(火)
日刊産業新聞	産業新聞社	平成20年11月13日(木)
鉄鋼新聞	(株)鉄鋼新聞社	平成20年11月4日(火)

（２）定期刊行誌

掲載誌	発行機関	掲載号
北陸の建設技術	北陸地方建設事業推進協議会	9月号、12月号

（３）ホームページ

掲載機関	ホームページアドレス	掲載コンテンツ
国土交通省北陸技術事務所	http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/	トップコンテンツ(バナー)
国土交通省新潟港湾空港技術調査事務所	http://www.gicho.pa.hrr.mlit.go.jp/	トップコンテンツ(バナー)
(社)日本建設機械化協会 北陸支部	http://www.jcmanet.or.jp/hokuriku/	トップコンテンツ(バナー)
(社)富山県建設業協会	http://www.tomiken.or.jp/	新着情報

■新聞報道

建設工業新聞（北陸工業新聞社）
平成20年10月30日（木曜日）

コスト縮減など32課題を発表

北陸建設事業推進協 建設技術報告会開く

官民から450人が参加

北陸地方整備局、新潟・富山・石川各県、新潟市、ネクスコ、建設関連団体らで構成する北陸地方建設事業推進協議会の実行委員会（委員長・佐久間満北陸地方整備局北陸技術事務所長）は29日、新潟市中央区の新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）で、08年度「建設技術報告会」を開催した。

この日は、官民から約450人が参加。民間の建設会社や官公庁で新たに研究・開発されたコスト縮減などに関する新技術・新工法32課題が発表された。

開会式では、主催者を代表し北陸地方整備局の小池幸夫企画部長が、「今回で13回目となるが、建設技術の開発・活用は大きな命題。我が国はイノベーションによる物づくり、技術開発が大きな資源であり、今後の活用が重要」と話し、「民間の技術力を伸ばしていくにはリスクも併せ持つが、そのリスクをどうやって公共側で支援できるか検討している。本日報告される32課題の積極的な活用で、より良い社会資本整備を進めたい。この会を契機に、建設技術・開発の普及が図られるよう祈念する」とあいさつ。

あいさつする小池企画部長

続いて、北陸地方整備局企画部の小川信一防災課長が、「北陸地方の災害と対策」をテーマに記念講演した。

2会場に分かれ実施された技術報告は、①雪に関するものが最も多く、材料リサイクルや防災関連の技術にも注目が集まり、聴講者は各担当技術者の説明を熱心に聴き入っていた。

なお、会場にはパネル展示コーナー（21技術、NETIS登録技術コーナー（24技術）も設けられた＝写真。

記念講演を聴講する参加者　＝29日、朱鷺メッセ

報告技術は次の通り。

【国土交通省】

▽ロングスパン地表伸縮計の検討　北陸技術事務所

【日本土木工業協会北陸支部】

▽軽量緑化パネル工法による屋上緑化　植木組

▽直立浮上式防波堤の開発　大林組

▽イージースラブ橋（H鋼桁埋込RC床版橋）　加賀田組

▽トンネル内巻補強工法の開発　鹿島

▽NATMとシールドを融合した新しいトンネル工法「SENS」の開発　熊谷組

▽曲がり削孔による既設構造物の液状化対策　五洋建設

▽コンクリート構造物のひび割れ検出システム　大成建設

▽MMB（マルチ・ミキシングバケット）工法の開発　福田組

【日本道路建設業協会北陸支部】

▽ヒートスティック工法（薄層路面補修工法）の開発　鹿島道路

▽下水汚泥焼却灰の安定化処理とデスファルトフィラー化　金沢舗道

▽オールシーズン型環境舗装の効果　ガイアート・K

▽ザペック工法タイプG（凍結抑制舗装）　世紀東急工業

▽ニューカラーコート・シリーズ（常温型薄層カラー舗装）　東亜道路工業

▽ブロック舗装強化工法　大成ロテック

▽常温ガラスコーティングシステム　大成ロテック

▽ヒートドレッシング工法の試験施工および調査結果　福田道路

▽加熱明色薄層舗装（明色トンネルシール工法）の適用性　日本道路

【建設コンサルタンツ協会北陸支部】

▽崖錐斜面上の大規模な軽量盛土（EPS）に対する性能照査の必要性　東京コンサルタンツ

▽場所打ちPC床版（フルプレストレス）のプレストレスロス対策　東京コンサルタンツ

【日本建設機械化協会北陸支部】

▽薄層表面処理工法「ニッポカーペット」　NIPPOコーポレーション

▽融雪用プレキャストRC版舗装の設置事例　永井コンクリート工業

▽手すり先行工法に基づく働きやすい安心感のある足場　全国仮設安全事業協同組合

▽重機用危険探知・警報装置に関する技術報告　アム力

【プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部】

▽PC道路橋計画マニュアルの改訂　オリエンタル白石

【北陸PC防雪技術協会】

▽道路防雪施設マニュアル「コンクリート構造編」の改訂　北陸PC防雪技術協会

【新潟県融雪技術協会】

▽施工性・メンテナンス性を向上した新型消雪パイプブロック　興和

▽RPDによる連続打撃動的貫入試験　興和

【日本埋立浚渫協会北陸支部】

▽環境対応型グラブ（スーパーグラブバケット）浚渫工法　東亜建設工業

▽カキ殻を活用した屋上緑化工法　本間組

▽MLT工法による減容化システム　本間組

▽液状化対策としての静的圧入締固め工法（CPG工法）　みらい建設工業

日刊建設工業新聞（日刊建設工業新聞社）
平成 20 年 10 月 30 日（木曜日）

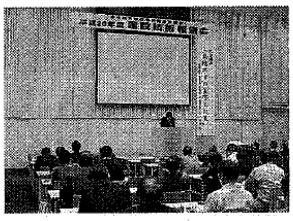
6分野32件の技術紹介

北陸整備局らが報告会

建設技術報告会が29日、新潟市の朱鷺メッセで開かれた＝写真。トンネル内巻補強工法（鹿島）など、6分野32件の技術が紹介された。

北陸地方整備局の小池企画部長は「民間技術を公共工事に活用する仕組みづくりを検討中だ」と述べた。小川防災課長が講演し、防災・減災対策と危機管理の重要性を強調、「事業継続計画を全機関で」と指摘した。

コスト縮減関係が10件、環境7件、災害6件など。うち12件が国土交通省の新技術活用システムに登録されている。2会場で、技術開発と施工成果などが発表された。新技術紹介コーナーも設置され、関心を集めた。



北陸
北陸総局
〒951-8066
新潟市中央区東堀前通一番町343（東堀ビル）
電話　025-229-5411
FAX　025-229-5412
hokuriku@decn.co.jp

新潟建設新聞（日本工業経済新聞社）
平成 20 年 11 月 1 日（土曜日）

「BCPの策定を」

新しい危機管理対策で

北陸地方整備局 小川防災課長

10月29日に新潟市中央区の朱鷺メッセで開かれた「平成20年度建設技術報告会」において、北陸地方整備局企画部の小川信一防災課長が『北陸地方の災害と対策』と題した記念講演を行い、自然条件の変化等からみる危機意識と災害の実態を紹介したほか、新しい危機管理として、事業継続計画（BCP）策定の必要性を強調した。

小川課長は、まず「国が行う4つの『防』（防衛、防犯、防疫、防災）のうち、防災は予測が困難であり、起きてしまった時の被害を最小化することが目的」と説明。特に時間雨量50㎜以上の降雨は近年増加傾向である」とし、水問題が顕在化しているとの現状を指摘。

さらに、地球温暖化等に対する危機管理、準備を進める必要がある」と強調。

北陸地方整備局では、平成8年12月の「蒲原沢土石流災害」から災害対策に変化があったとし、

近年の気象の変化の捉え方としては「例えば、年降雨量は減少傾向にあるが、少雨、多雨の変動幅が増大であり、洪水・渇水の可能性が大きい。気象』ではなく『異常気象』であって、自然災害の影響によって、高潮・海岸浸食、降水の増大、土砂災害の激化、渇水危険性の増大―が起こっているとし「もはや『異常気象』ではなく『恒常気象』であって、自然災害

現在では、施設・資機材の充実や広域災害対応の展開、情報ネットワーク等を強化していると説明した。

今後の新しい危機管理施策に関しては、力を込め「事業継続計画（BCP）は連携機関全て策定すべき。再度、北陸で大きな災害が発生した際に、どのような体制で対応に臨むのか。自然災害はいつ発生するか分からないが、それぞれに危機管理を充実させておく必要がある。協力会社も含めて、皆様の会社や組織（団体）でBCPを作っていただき、我々との災害時の連携がスムーズに出来るようお願いしたい」と要請した。

新潟建設新聞（日本工業経済新聞社）
平成 20 年 10 月 30 日（木曜日）

民・官が新技術発表

建設技術報告会開く

北陸地整

北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、民間建設会社や官公庁で、新たに研究開発された新技術・新工法を披露する「平成20年度建設技術報告会」が29日、新潟市で開かれた。

開会式で、北陸地方整備局の小池幸男企画部長は「全国的に見ても、やはり建設技術の開発・活用は大きな命題。今後は、私ども官公庁と民間が一緒になって新技術を建設行政の中に反映できる仕組みを考えていきたい。新技術・新工法を公共工事等で積極的に活用することで、より良い社会資本整備が図られることを期待する」と挨拶。

続いて、同局企画部の小川信一防災課長が『北陸地方の災害と対策』と題した記念講演を行い、新しい危機管理として、事業継続計画（BCP）策定の必要性を強調した。

第13回目となった今年度は、①雪に強い地域づくり②良いものを安く③自然災害からの安全確保④環境の保全と創造⑤ゆとりと福祉⑥その他―のテーマに沿って32の新技術が報告された＝10月29日付け2面に掲載＝。

なお、同報告会は、CPD（継続教育）、CPDS（継続学習）プログラムの認定講習となり、ユニットの加点対象となる。

32の新技術が報告された（29日、朱鷺メッセ）

委員からは、「売却ではなく、別の利用策を検討する余地はないのか」といった声も出たが、市では、土地の売却益を新市場建設に伴う起債の償還分に充てることで、市の財政負担を軽くしたい意向を説明、理解を求めた。

また、協議会では、市の方針や地元住民の意向を十分に踏まえた上で慎重にコンペを実施することや、今後の展開の中で、民設民営の児童センターの設置なども検討することを要請した。

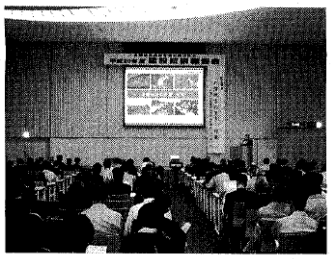
開発提案コンペは、今年度内にも実施する見通しだ。

建設通信新聞（(株)日刊建設通信新聞社）
平成20年11月4日（火曜日）

開発リスク軽減図り 新技術の活用を促進

建設技術報告会

克雪、防災など32の新技術発表



北陸地方における建設事業を円滑に推進するため、官民が研究開発した新技術や新工法などを発表する建設技術報告会が10月29日、新潟市中央区の朱鷺メッセで開かれた＝写真。

整備局、官公庁、実行委

小池企画部長

北陸地方整備局、管内自治体などの官公庁、業団体で構成する北陸地方建設事業推進協議会の建設技術報告会実行委員会が1995年度から開催している報告会で、第13回目となる2008年度は、北陸地方への適用性や有用性がある32の新技術などが発表された。

開会あいさつで北陸地方整備局の小池幸男企画部長は「品確法の施行を踏まえ、全面導入している総合評価方式の中で新技術の提案を評価している。技術開発にはリスクが伴うため、このリスクを公共側で軽減させる方策も現在検討している。今回の報告会を契機に、公共工事での活用が進み、技術開発や新技術の活用が促進することを期待している」と述べた。

小川信一北陸地方整備局企画部防災課長による「北陸地方の災害と対策」と題する記念講演のあと、建設会社やコンサルタントなどの民間企業や同局の職員らが、「雪に強い地域づくり（克雪対策、冬期道路交通の安全確保）」「良いものを安く（コスト縮減、省力化）」「自然災害からの安全確保（危機管理、土石流などに対する防災技術）」「環境の保全と創造（建設副産物、リサイクル技術）」「ゆとりと福祉（情報化に関する技術）」などのテーマに沿って、新技術や新工法について発表した。

会場2階のアトリウムには展示コーナーを設置。民間が開発した20技術に加え、NETIS（新技術情報提供システム）登録技術の中から24技術を選び、パネルやパンフレットなどを使って紹介した。

鉄鋼新聞（(株)鉄鋼新聞社）
平成20年11月4日（火曜日）

北陸地方建設事業推進協議会

建設技術報告会開催

災害対策を訴える小川防災課長

北陸地方建設事業推進協議会（事務局・北陸地方整備局北陸技術事務所）は10月29日、新潟市の朱鷺メッセで08年度建設技術報告会・講演会を開催した。

新技術・新工法の普及を目的に、公共工事の品質確保、コスト縮減に取り組む。民間技術の促進には開発リスクがつきまとうため、公共側で支援し、共同開発できる仕組みを検討していく。

冒頭「北陸地方の災害と対策」と題し、小川信一企画部防災課長が講演。要約は次の通り。

日本は地勢的に災害に弱い構造的な弱点がある。大都市のほとんどは軟弱地盤上にあり、洪水時は10％の土地に50％の人口、75％の資産を保有している。特に日本海側は日本アルプスを背景に急勾配の河川が多い。

年間降水量は減少傾向だが小雨、多雨の変動が増大し、洪水・渇水の危険が増大。2080～2100年には最大日降水量が1・5倍、豪雨が年間10回に増加すると予測。

高潮・海岸浸食、洪水の増大、土砂災害の激化、渇水危険性の増大が見込まれることから異常災害ではなく「恒常災害」との認識で危機管理し防災・減災の対応が必要。

北陸地方整備局では災害時の事業継続計画を策定しており①人・もの・情報に一定の制約②優先度を確立③業務目標・業務再開目標を設定し、関係機関・自治体・団体と連携しスムーズな災害支援を行える協力体制づくりを訴えた。

報告会では鉄鋼製品を使った工法、環境製品など32課題が発表された。

▽鋼管杭を使用した直立浮上式防波堤の開発（大林組）▽イージースラブ橋（H鋼桁埋込RC床版橋）（加賀田組）▽バックホウに撹拌装置を取り付けたマルチ・ミキシングバケット工法の開発（福田組）▽ロータリーパーカッションドリルによる連続打撃動的貫入試験（興和）▽軽量緑化パネル工法による屋上緑化（植木組）▽カキ殻を活用した屋上緑化工法（本間組）など。

日刊産業新聞（産業新聞社）
平成20年11月13日（木曜日）

災害対策などで技術報告会

北陸建設事業推進協

【新潟】北陸地方建設事業推進協議会はこのほど、新潟市の朱鷺メッセで2008年度「建設技術報告会」を開催した。当日は、雪や自然災害、環境保全、コストなどのテーマに沿って32の報告が行われ、一般聴講者は461人に上った。

同協議会は、国土交通省北陸地方整備局のほか、新潟県、富山県、石川県などや民間関連団体で構成され、今回はCPD（継続教育）、CPDS（継続学習）プログラム認定講習として実施された。席上、小川信一・北陸地方整備局企画部防災課長が「北陸地方の災害と対策」と題して記念講演を行った。

報告テーマ別では、雪に関して「ザペック工法タイプG（凍結抑制舗装）について」、コスト対策で「イージースラブ橋（H鋼桁埋込みRC床版橋）」、自然災害からの安全確保で「直立浮上式防波堤の開発」、環境保全と創造で「下水汚泥焼却灰の安定化処理とアスファルトフィラー化」、ゆとりと福祉で「常温型薄層カラー舗装」などが報告された。

■定期刊行誌

北陸の建設技術（北陸地方建設事業推進協議会）

９月号

１２月号

建設分野の新技術・新工法

「平成20年度建設技術報告会」を開催

北陸地方建設事業推進協議会「平成２０年度建設技術報告会」（主催：建設技術報告会実行委員会）が１０月２９日（水）に新潟市の新潟コンベンションセンター（朱鷺メッセ）に於いて、官民から４６１名の聴講者を集め開催されました。

この「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術・新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を図ることを目的に平成７年度から開催され今回で１３回目となりました。

開会式では主催者を代表し北陸地方整備局小池企画部長が、「新技術・新工法を公共工事等で積極的に活用することで、より良い社会資本整備が図られることを期待する。」と挨拶、引き続き同局企画部小川防災課長より「北陸地方の災害と対策」と題し、新しい危機管理施策として災害時の事業継続計画（ＢＣＰ）の必要性について講演をいただきました。

開 会 式（聴講状況）

開会挨拶（北陸地方整備局小池企画部長）

記念講演（北陸地方整備局小川防災課長）

発表状況

◆技術報告会は２会場に分かれ、北陸地方のニーズが高い６テーマについて３２題が発表されました。

① 雪に強い地域づくり（４題）
② 良いものを安く（１０題）
③ 自然災害からの安全確保（６題）
④ 環境の保全と創造（７題）
⑤ ゆとりと福祉（１題）
⑥ その他（４題）

また、聴講者の方々に、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術、関心の高かった技術をアンケートしたところ、以下の技術に興味を示されていました。

■「曲がり削孔による既設構造物の液状化対策」（五洋建設(株)技術研究所）
■「ロングスパン地表伸縮計の検討について」（北陸地方整備局北陸技術事務所）
■「直立浮上式防波堤の開発」（(株)大林組土木本部）
■「常温ガラスコーティングシステム」（大成ロテック(株)中部支社）
■「薄層表面処理工法「ニッポカーペット」について（(株)NIPPOｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ北信越支店）

◆ 会場併設ロビーに於いては「新技術パネル展示コーナー」及び「ＮＥＴＩＳ登録技術紹介コーナー」を併設し、２０技術のパネル展示と２４技術の NETIS 登録技術のパンフレット配布を行い情報収集の場として活用していただきました。

新技術パネル展示コーナー

NETIS 登録技術のパンフレット配布コーナー

◆ 社会資本整備に携わる技術者の技術力向上の場として、この報告会を積極的に活用していただくため、今回、はじめて(社)建設コンサルタンツ協会のＣＰＤと(社)全国土木施工管理技士連合会のＣＰＤＳの認定プログラムに申請し、約１４０名の技術者に受講証明を発行しました。

最後に、本報告会の実行委員長である北陸技術事務所の佐久間事務所長から発表内容についての総評並びに閉会挨拶があり、新技術の活用・普及に向け大変有意義な報告会となりました。

総評・閉会挨拶（佐久間北陸技術事務所長）

総評・閉会式（聴講状況）